

感性豊かに、たくましく生き抜く子



町野小

やる気、元気、なりたい自分になろう！

輪島市立町野小学校  
学校だより 特別号  
令和7年3月14日

学校評価だより（最終報告）

令和6年度第3回学校関係評価委員会（令和7年2月20日）では、学校評議員と学校関係者評価委員の皆様より次のようなご意見をいただきました。今後の教育活動に生かして参ります。

【基本的な生活習慣】

- ・「ていねいな歯磨き」の肯定的な評価が低いが、学校からの呼びかけや取組を今後も継続し、家庭での取組が定着できるようにする。
- ・地域の方へのあいさつがしっかりできる児童が少ない。心を育てる教育活動を充実させ、感謝の気持ちや思いやりの気持ちを育てる。

【防災教育】

- ・地震の体験を今後の防災教育に生かしていく。

【地域との連携】

- ・地域の人材を活用し、特色ある教育を推進する。

【その他】

- ・地震や豪雨でお世話になったボランティアの方々のことを道德教育等で取り入れていく。

R6 学校評価表

評価項目	今年度の重点項目	担当者	評価標準・評価の観点	具体的な取組	実現状況の達成度判断基準	時期・評価材料	第1回自己評価	取組状況改善策等	時期・評価材料	第2回自己評価	取組状況改善策等		
1	①学校安全の推進	教頭 生徒指導主事 養護教諭 食に関する指導担当	児童の安全を確保するためのマニュアルに沿って職員が対応できるよう周知されている。	・避難訓練の充実 ・災害時における児童の引き渡し訓練 ・アレルギーへの対応 ・AED講習会	アンケート「子どもたちの安全に注意をはらっている」（保護者）「安全のための取組」（教員）の『肯定的な評価』の割合 A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末保護者アンケート 教員アンケート	100% 100%	A A	1学期に避難訓練（地震・火事・不審者対応）を行った。 5月にアレルギー対応研修（教職員対象）を行った。	2学期末保護者アンケート 教員アンケート	100% 89%	A A	2・3学期に避難訓練（災害時引き渡し訓練・雪害時等のオンライン授業実施訓練）を行った。
2	②道徳教育の充実	道徳教育推進教師	道徳の授業では、学校行事や特別活動、実生活等との関連付けをしながら、考え方を学ぶ授業を行い、道徳性が高まるように努めている。	・児童が考え方を学ぶ授業を行い、板書を実際に振り各教室で掲示する。 ・道徳教育に関する研修会の開催	アンケート「道徳の授業で、児童が考え方を学ぶ授業を行っている」の『肯定的な評価』の割合（教員アンケート） A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末教員アンケート	100%	A	1学期中に行った授業で議論した様子を板書を写真に撮り、定期的に教室の道徳コーナーに掲示することができた。 夏季休業中に、児童が問題意識をもって考え方を学ぶ授業を目指した発問の工夫等についての校内研修会を行った。	2学期末教員アンケート	100%	A	10月以降は柳田小において、夏季休業中の校内研修で学んだ「児童が考え方を学ぶ授業づくり」を継続して行うことができた。教室の道徳コーナーに授業後の板書の写真を掲示することができた。
3	③読書活動による心の教育の推進	図書館担当	『図書室で本を借りる、返す習慣』を呼びかける等の啓発活動を行い、目標値を達成できるよう、読書活動の推進が図られている。	・朝読書の充実 ・毎月の「読書の日」の取り組み（本の紹介・読み聞かせ） ・図書室の利用の推進 ・低学年100冊、高学年80冊の目標設定	学校全体の1ヶ月の読書冊数平均 A : 10冊以上 B : 6冊以上9冊未満 C : 4冊以上6冊未満 D : 4冊未満	1学期末読書記録等学校全体としてのデータをもとにする・読書調査	12.8冊	A	4~7月計924冊÷4÷18=12.8冊/月・人 1学期に委員会でスタンプラリーを行った。 2学期も金曜日と月曜日の委員会の呼びかけ、朝読書、読み聞かせ、本の紹介を継続する。12月の全校集会で委員会表彰を行い、図書室の利用を呼びかける。	2学期末読書記録等学校全体としてのデータをもとにする・読書調査	8.2冊	B	9月は町野小学校図書館で176冊（19名） 10月から1月は柳田小学校で494冊（18名）の貸出しがあった。（一人平均約8.2冊）柳田小でも朝読書の時間を確保して、毎日取り組んでいる。
4	④「安心」のある学校づくり	養護教諭	児童は、自分の歯や口の中の健康を意識して、丁寧に歯みがきをしている。	・児童アンケート ・さわやかカード	「ていねいな歯みがき」の『肯定的な評価』の割合（児童アンケート） A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末児童アンケート	100%	A	児童は100%が丁寧な歯みがきをしていると答えていて、保護者との「丁寧な歯みがき」とのとらえ方に違いが見られる。実際には丁寧にみがけていないと思われるが、2学期はみがき方のスキルに力を入れていきたい。	2学期末児童アンケート	100%	A	2~3学期にかけて月に1週間砂時計を持たせて朝夜の「丁寧な歯みがき」に取り組ませたが、保護者からはまだまだ不十分という評価であった。家での歯みがきに関しては、学校が把握するには限界がある。来年度はもっと学校と保護者が密に協力し合って「丁寧な歯みがき」を取り組んでいきたい。
5	⑤児童理解に基づく生徒指導体制の充実		自分が悩んだり不安なことがあった時は先生や友達に相談し、困っている友達に対しては進んで助けることができる。	・心の健康の授業 ・スクールカウンセラーの活用	「ていねいな歯みがき」の『肯定的な評価』の割合（保護者アンケート） A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末保護者アンケート	54%	C	少しでも気になる児童へは個別面談や声掛け、見守り等を教職員全員で積極的に行っていく。これからも子どもたちの声を「聴く」ことに留意していきたい。	2学期末保護者アンケート	43%	D	10月から急に柳田小で学校生活を送ることになったため、戸惑いを持つ児童も多いことを想定して子どもたちの様子を注意深く観察した。少しでも気になる児童には担任やSCが面談を行って職員の共通理解も密にしたが、児童のアンケートでは100%から77%に下がり、不十分だったようだ。来年度は子どもたちの声により一層耳を傾け、同時に継続的に行事等で思いやりの心を育んでいきたい。
6	⑥特別支援教育の充実	特別支援教育コーディネーター	特別な支援を必要とする児童への対応（外部機関との連携・保護者との面談）を学期に行っている。	・特別な支援を必要とする児童への対応（外部機関との連携・保護者との面談）を学期に行っている。	定期的な児童理解連絡会の開催及びアンケート「相手の気持ちを考え行動している」の『肯定的な評価』の割合 A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末児童アンケート	100%	A	継続的行事を多く取り入れたことで、助け合いの行動が増えてきている。今後も継続的行事を継続していく。 児童の優しさや思いやりの心を育てていきたい。	2学期末児童アンケート	77%	B	相手の気持ちを考え行動する場面も見受けられるが、日々自己中心的な言動をとる児童もある。落ち込んでいるから、自分の言動を振り返らせるようしている。
7	⑦年間を通じた体力・運動能力づくり	体力づくり担当	学校教育全体で、体力向上の取組を行っている。	・年間を通じた体力・運動能力づくり ・授業や行事の工夫	「体力が向上している」の『肯定的な評価』の割合（保護者アンケート） A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末保護者アンケート	95%	A	概ねよいが、まだ自己中心的な言動をとる児童もある。日常生活や道徳教育を中心に思いやりの気持ちを育てる。	2学期末保護者アンケート	94%	A	相手の気持ちを考え行動する場面も見受けられるが、日々自己中心的な言動をとる児童もある。落ち込んでいるから、自分の言動を振り返らせるようしている。
8	⑧特別支援教育の充実	特別支援教育コーディネーター	特別な支援を必要とする児童への対応（外部機関との連携・保護者との面談）を学期に行っている。	・特別な支援を必要とする児童への対応（外部機関との連携・保護者との面談）を学期に行っている。	外部機関との連携・保護者との面談 A : 3回以上 B : 2回 C : 1回 D : 0回	外部機関・保護者面談の回数	2回	B	1学期の様子から2学期以降は来年度に向けて外部機関との連携・保護者との面談を設定していく。	外部機関・保護者面談の回数	2回	B	特別支援教育地域センターと連携し、個々にあった指導法で授業を進められた。また、児童、保護者との面談を行うことができた。
9	⑨年間を通じた体力・運動能力づくり	体力づくり担当	学校教育全体で、体力向上の取組を行っている。	・年間を通じた体力・運動能力づくり ・授業や行事の工夫	「体力が向上している」の『肯定的な評価』の割合（保護者アンケート） A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末保護者アンケート	77%	B	4月当初よりは持久力の向上を感じるが、体力テストの結果は良くなかった。マラソン大会の練習、スポーツチャレンジ、体育科での持久走の取り組みから、体力の向上を目指す。	2学期末保護者アンケート	86%	A	柳田小と合同で、行事に向けマラソン練習、縄跳びの練習をした。授業の導入の持久走、運動量の確保、スポーツチャレンジの取り組みを行って体力づくりに努めた。

## R6 学校評価表

評価項目	今年度の重点項目	担当者	評価標準・評価の観点	具体的な取組	実現状況の達成度判断基準	時期・評価材料	第1回自己評価	取組状況改善策等	時期・評価材料	第2回自己評価	取組状況改善策等		
10		研究主任	主体的・対話的で深い学びにつなげるために、授業改善を行っている。	・学力向上プランの日常的な取組	アンケートの『肯定的な評価』の割合(教員アンケート6) A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末教員アンケート	100%	A	全体研修会等で学力向上プランについての共通理解を図り、共通実践を行うことができている。	2学期末教員アンケート	100%	A	柳田小学校で学校生活を送ることになり、学力向上プランの取り組みをできなかった期間もあるが、2学期後半からは、取り組みを行えている。
11	①指導の充実	教務主任	校内『漢字・計算テスト』『診断テスト』で、当該学年・当該教科の目標通過率を達成できている。	・基本の定着、活用問題の指導	達成できている児童の割合 A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	『漢字力テスト』90点以上の合格者数	78%	B	テスト期間にはリストを小分けにして宿題に取り入れ、点検の精度を上げたり個に応じた指導を行つたりして、できるだけ合格できるように支援したが結果が伴わない児童もいた。今後の全校テストでは特に漢字に注力していくたい。	『漢字力テスト』90点以上の合格者数	67%	C	2学期以降は、従来の全校テストではなく、漢字は学期末テスト、計算は柳田小の算数検定を実施し、達成度を確認した。どちらも7割に満たず。基礎基本の定着に課題が見られた。個々の課題を把握し、個に応じた補充学習を実施している。
12						『計算力テスト』90点以上の合格者数	89%	A	児童の実態に応じて、各担当者が児童の困り感に寄り添い、工夫しながら個別指導を行っている。また、担任と教科担当者が連携し、組織的指導を行っている。	『計算力テスト』90点以上の合格者数	67%	C	柳田小の職員と連携・協力して授業内でも個別指導を充実させられた。また、放課後や休み時間に児童のつまづきに着目し、個に応じた組織的指導を行っている。
13	②「学びのある学校づくり」	生徒指導主事担任	学習理解の定着に対して、個別指導等のフォローアップ指導が行われている。	・学習内容の定着のための個別指導 ・放課後学習による個に応じた組織的指導	アンケートの『肯定的な評価』の割合(教員アンケート) A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末教員アンケート	100%	A	児童の実態に応じて、各担当者が児童の困り感に寄り添い、工夫しながら個別指導を行っている。また、担任と教科担当者が連携し、組織的指導を行っている。	2学期末教員アンケート	100%	A	柳田小の職員と連携・協力して授業内でも個別指導を充実させられた。また、放課後や休み時間に児童のつまづきに着目し、個に応じた組織的指導を行っている。
14						『学習ルール』をもとに、全校一致して指導にあたり、授業規律の確立に努めている。	・授業規律の確立	アンケートの『肯定的な評価』の割合(教員アンケート) A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末教員アンケート	89%	A	教員は学習ルールが身に付けられるようにきめ細やかに指導している。一部の児童が守られていないので、できたことを褒めるようにしている。	2学期末教員アンケート
15	②児童の学びの姿勢		『生活のきまり』をもとに、全校一致して指導にあたり、ルールを守るよう指導が行われている。	・生活ルールを守る指導	アンケートの『肯定的な評価』の割合(教員アンケート5) A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末教員アンケート	100%	A	生活のきまりを守ろうとしている児童が多く、互いに注意しあう姿も見られる。なぜルールを守ることが大切かを考えさせようとする。	2学期末教員アンケート	100%	A	生活のきまりを守らるるように、疑問点はすぐ共通理解している。一部児童が守られないこともありますので、きまりを確認させ指導している。
16						児童の家庭学習のめやすの時間が守られている。(1・2年:30分, 3・4:45分, 5・6年:60分)	・「家庭学習時間」調査	達成できている児童の割合 A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	「家庭学習時間」調査	85%	A	ほとんどの児童がめやすの時間を守って家庭学習に取り組んでいる。守っていない児童には個別指導を継続的に行い要めて認めて意欲的に取り組めるように促していく。	「家庭学習時間」調査
17	③家庭学習の充実	教務主任	計画的に学習の復習を繰り返し行い、理解定着に努めると共に、授業の予習なども必要に応じて行っている。	・自学ノートの活用	自学ノートに個々の課題に応じた復習・予習をしている児童の割合 A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	・自学ノートの取り組み状況	83%	B	今年度は、取り組みが優秀な児童のノートを全校児童が見える場所に掲示している。意欲喚起や質の向上に繋がるよう、継続して取り組んでいく。	・自学ノートの取り組み状況	72%	B	水害前は、優秀な児童の自学ノートを立ち止まって見て、意欲を高める児童姿が見られ、効果があった。柳田小へ移動したこと、意欲喚起する手立てをしてづらかった。次年度は、継続して取り組ませたい。
18	④連携の充実	教頭 情報担当	HPの更新、学校だよりや学級だよりの定期的な発行等を通して日々の教育活動を保護者や地域に伝えている。	・各種お便りの定期的発行、ホームページの更新による情報発信	アンケートの『肯定的な評価』の割合(保護者アンケート15) (教員アンケート14) A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末保護者アンケート教員アンケート	100%	A	HPの更新、学級便り月1回以上発行で、児童の様子を伝えていくことを、今後も継続していく。	2学期末保護者アンケート教員アンケート	100%	A	2学期以降、HP更新回数が減少したので、年間を通して定期的に情報発信をしていくようにしたい。
19						地域の素材を元に、学習活動を行ったり、地域の人材を活用したりして、地域の教育力を積極的に活用している。	・地域体験学習 ・地域人材の活用 ・外部機関の活用 ・他校との交流	アンケートの『肯定的な評価』の割合(教員アンケート11, 12) A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末教員アンケート	100%	A	復旧・復興の視点を取り入れながら、今後も地域の人材や地域の素材やを基にした学習を積極的に取り入れ、継続していく。	2学期末教員アンケート
20	②保護者、地域、関係機関との連携	教頭	学校は、保護者が連絡、相談したことにより丁寧に対応している。	・組織的対応	アンケートの『肯定的な評価』の割合(保護者アンケート16) A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末保護者アンケート	100%	A	相談事は、電話だけでなく、面談を行い、丁寧に話を聴いている。管理職も関わり、組織的に対応している。	2学期末保護者アンケート	100%	A	相談事は、電話だけでなく、面談を行い、丁寧に話を聴いている。管理職も関わり、組織的に対応している。
21						年間で7回以上の研究授業を行い、事後研究会で自身の課題を明確にし、授業改善に努めている。	・職員の校内・校外での研修の充実	研究授業の回数(全体会員) A : 7回以上 B : 5~6回 C : 2~4回 D : 2回未満	研究授業の回数	2回	A	1学期は計画通りに研究授業を行なうことができた。研究授業と授業整理会を通して、個々の課題を明確にすることができている。	研究授業の回数
22	④人材育成と業務の改善	教頭 若手研修コーディネーター	校内研修等を通して、学校全体で知識を深め、対応力、指導力の向上を図る。	・校内研修 ・若手研修	アンケートの『肯定的な評価』の割合(教員アンケート) A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満	1学期末教員アンケート	100%	A	若手研修を確実に実施している。 GIGA研修でICT活用能力を向上に取り組んでいる。	2学期末教員アンケート	100%	A	新たに見つかった課題についての研修会を迅速に企画・実施することができた。
23						業務改善を意識して、業務にあたっている。	・研究チームの機能化 ・定時退校日、マイ定時退校日の設定と実施 ・業務の平準化 ・ICTの効果的な活用	時間外勤務時間が平均月45時間以内の教員数 A : 85%以上 B : 70%以上85%未満 C : 50%以上70%未満 D : 50%未満 アンケート業務改善を意識して業務に当たっている(教員アンケート)	勤務時間調査 1学期末教員アンケート	100%	B	4月は45時間を超えた職員が多くつたが、5月から徐々に減り、90%は45時間以内に納めることができた。ICTの積極的な活用でさらなる業務改善を行なっていかたい。	勤務時間調査 2学期末教員アンケート